

◎どうしても行って見たかった場所

突然ですが、私は退職後、
ワーキングホリデーをしに、
海外に行ってきます。

そのため、日本にいるうちに
どうしても行っておきたい
場所がありました。

それが、鹿児島県にある
「知覧特攻平和会館」です。



ずっと、自分1人では

行きにくいと思っていたのですが、

この4年間、
政経部門に勤めた集大成として、
思い切って行ってきました。

◎知覧を選んだ2つの理由

いったいなぜ知覧を選んだのか...
そこには2つの理由があります。

1つ目が、日本人としての誇りと自覚を 強烈に胸に刻みたかったからです。

私はダイレクトに入社するまで
日本人としての誇りや
アイデンティティのない
ただのひねくれ者でした。

幼少期を香港で過ごした私は、
海外の人と接する機会が多かったため、
日本に帰国後、

- ・自分の意志を主張しにくい環境
- ・周りと一緒に良しとされる風潮
- ・覇気がなくどこか寂しいサラリーマンの背中

などなど...

香港時代とは全く違う環境に戸惑い、
次第に日本人であることを恥じ、
嫌うようになっていました。

しかしご縁があり、ダイレクト出版に入社し、
藤井先生の商品を担当させていただき、

“本物の歴史や知識”に触れていく中で、
私の凝り固まった考え方は、
自然に解きほぐされ、いつしか、

日本人ってすごい...

と心の底から思え、
日本人としての誇りと自覚を
取り戻すことができました。

そして、いつか
自分の目や耳、肌を通じて、身をもって
日本人としての魂を感じられる場所に
行ってみたいと思うようになりました。

2つ目が、歴史好きな 父親に薦められたからです。

半年ほど前、父と話していた時のこと。

私が、海外に行きたいから
退職しようと思っていることを
伝えたところ、

海外に行く前に、
知覧の特攻平和会館には
絶対に行ったほうがいいと
強く薦められました。

実は父も、私と同じ26歳の時に、
知覧に行ったことがあり、
そこで衝撃を受けたそうです。

「涙なしでは見られない...

自分がいかに恵まれた環境にいて、
先人たちが築いた礎の上で生きているかを
感じることはきっと今後の人生に役立つ。

日本人としての誇りや自覚を
一度感じてから、海外に行きなさい」

という父の言葉に感化されました。

以上2つの理由から、私は
海外に行く前にどうしても
知覧には行っておきたいと思い、
今回、行ってきたというわけです。

前置きが長くなってしまいましたが、
ここからは実際に感じたことを書きます。

◎自然と溢れてくる涙と感謝

館内は大きく分けて、
ビデオやスタッフによる講話と、
遺書、遺物や写真展示の2つがありました。

それぞれで強く印象に残っていることを
お伝えさせてください。



最初に、講話の中で感じたことです。

**まず、特攻隊に関して衝撃を受けたのが、
平均年齢が21.6歳であったことでした。**

その中には、17~18歳の
少年兵も多く含まれていました。

そして彼らは、自分たちが頑張れば、
きっと後世の人たちが我々の分まで
日本復興のために力を尽くしてくれる...

という祈りや願いとともに、
散って行ったそうです。

今の人たちで言うと、ちょうど

高校生、大学生くらいの歳。

当時の自分は何をしていたかと
振り返ってみると、

高校ではサッカーに明け暮れ、
大学ではバイトや飲みに行ったり、
授業をサボって遊んでいたり、

自分さえ楽しかったらそれでいいやと
何も考えずに毎日を過ごしていました。

今の時代では、そんな日常が
普通となってしまっているので、
何がなんでもその生き方は悪だ！
と決めつけることは出来ません。

しかし、26歳になり、
それなりに色々な経験をしてきた今、
こうして先人たちの想いに触れると、

今の自分がいかに恵まれているか、
そして、この日常は
決して当たり前ではないということを
痛感することができました。

**また、陸軍少年兵の募集倍率が
40倍以上だったということにも驚きました。**

これを聞いて真っ先に思ったのが、
自分を含め、今の若者が同じ状況だったら、
こんなに応募があるのだろうかということです。

私の勝手な推測ですが、きっと
定員割れしてしまうだろうなと思いました。

今の若者を見ていると、
気概に溢れている人は少なく、

日本を愛し、日本人としての
誇りを自覚して過ごしている人も、
残念ながらあまり多くないように見えます。

そのような姿を、
先人たちが見たらどんな風に思うか...

きっと涙を流して、落胆し、怒る気すら
湧いて来ないのではないのでしょうか？

とはいえ、当時と今では
時代背景が全く違うので、
常に死を意識しながら行動することは
難しいかもしれません。

ですが、先人たちが命を懸けて守ってくれた
日本社会の基盤の上に、今の自分たちがある
ということを感じ、

それに対する感謝を忘れずに、
日々、一生懸命に生きていくことが
大切なことであると強く感じました。

次に、遺書や写真展示のコーナーで
感じたことをお伝えさせてください。

ここでは、特攻戦死された方々
ご家族に宛てた遺書や遺影、
当時の様子などを見ることができます。

**まず、遺書を拝見した時、
彼らの文字がものすごく力強く、**

**私たちが書いている文字とは
全く違うことに驚きました。**

それは、今とは字体が違うとか、
達筆であるとかではありません。

今でも力強い文字を書く人は
たくさんいらっしゃいますが、
それとは違く、

言葉では言い表すことができない、
強烈な覚悟と魂の乗った文字なのです。

当時の悲惨さや必死さを、
脳内に直接語りかけてくるような
重い重い文字...

手紙からだけでは、彼らの想いを
完璧に汲み取ることは出来ませんが、
並々ならぬ覚悟を感じ取ることができました。

**また、遺書のほとんどは、
母親に対して書かれたものでした。**

内容を読んでみると、
誰一人として死ぬことを恐れていなく、
自分の一生の終わり方に対しての
後悔は全くないのです。

しかし唯一の心残りが、愛を持って
育ててくれた母親に対して、何一つ
親孝行が出来ていないということでした。

そして彼らの、最初で最後の親孝行が
日本の勝利と繁栄を願って、
特攻するという事だったのです。

自分たちが犠牲になることで、
残った家族が無事に生き延びられるなら
命さえも惜しいと思わない...

そんな覚悟に触れた時、
自然と涙が溢れてきました。

そしてそれと同時に、自分は
ちゃんと親孝行できているだろうか、
感謝を伝えられているだろうかと、

今後はより一層、両親への感謝と
恩返しをしていきたいと心に誓いました。

最後に、特に印象に残っている
1枚の写真についてお伝えさせてください。

それは、特攻の30分前、

笑顔で映る少年兵たちの写真です。

30分後に出撃するとは到底思えないほど
心の底から笑っている眩しい笑顔。

ボロボロの軍服に、汚れた顔で、
決して綺麗とは言えない姿なのですが、
その屈託のない笑顔は清々しく、

彼らの美しい瞳にはきっと
日本の輝かしい未来が
見えていたのだろうか...

そんな風に思うと、
犠牲になっていった先人たちに
恥じないような生き方をしなければと
強く思いました。

* * *

私が平和会館にいたのは、
たったの数時間ほどでしたが、

上記のように、普段の日常生活では
決して感じることのできない
様々な感情に触れることができ、
命の尊さを再認識することができました。

また、先ほども書きましたが、
今の自分が置かれている環境は
当たり前ではないことを日々実感し、

自分を支えてくれる周りの方々への
感謝を忘れないこと。

そして、この素晴らしい
日本社会をさらに発展させ、
もっと素敵な日本を創り上げること。

**この2つが、亡き先人たちに対して、
私たちができる「最大限の恩返し」
であると思いました。**

ダイレクト出版に入り、藤井先生に出逢い
この4年間を過ごしてきた中で、

私自身もいつか、日本の素晴らしさを
世界にはもちろん、日本人自身にも伝え、

日本ってまだまだやれるんだ！
日本ってこんなに素敵な国なんだ！

という風に感じてもらえるような
仕事をしたいと考えるようになりました。

そのためには、英語も
流暢に話せる必要がありますし、

海外に住むからこそ分かる
日本の優れている点、足りない点も
知っておく必要があると思います。

そして自分自身の成長のためにも、
10月から次のステップとして
海外に行くことを決断しました。

父の言った通り、海外に行く前に
知覧に行くことができ
とても良かったと思います。

私は、海外に出る日本人は
ある意味で日本代表だと思っています。

私たちが日本に住む外国人の行動を見て、
〇〇人はこうだと決めつけるように、

きっと海外に住む日本人の行動1つ1つが
日本人ってこうなんだと思わせる
きっかけになるはずです。

なので、日本を代表する1人の者として
常に礼儀と親切を忘れず、
頑張っていきたいと思います。

終わりになりますが、

この4年間色々な方々に支えられて
自分の考え方、生き方が
良い方向にガラリと変わりました。

会社の方々や先生方はもちろん、
お客様とのコミュニケーションでも
色々なことを学ぶことができました。

またどこかでお会いできる日を
楽しみにしています。

最後までお読みいただき、
本当にありがとうございました。

本日のメルマガについてのご感想などがありましたら
ぜひお寄せください！

↓

[ご感想はこちらから](#)

<今日のメルマガを書いた人>



政経部門 藤井厳喜事業部

草野 蘭之介 (くさの らんのすけ)

福島県生まれ、香港育ちの26歳。

高校進学と同時に仙台に引っ越し、
大学は東京で一人暮らしと転々...

趣味は、サッカーと旅行と音楽鑑賞。

プロフィールの写真は、
2022年カタールW杯のスペイン戦を
現地で観戦した時のものです。

音楽は特にMr.Childrenが好きで、
桜井和寿さんの歌詞センスに
いつも圧倒されています。

将来的には、
マーケティングの知識を使って、

日本の伝統・文化を外国に発信する仕事
or
スポーツの魅力を伝える仕事をしたい。

理想の自分を目指して、日々奮闘中...